



インターネットでの情報提供	
提供予定日	平成23年6月10日

平成23年6月9日（木） 県政記者クラブ・中濃記者会配布資料		
担当課	担当者	電話番号
森林研究所	水谷 嘉宏	0575-33-2585

岐阜県森林研究所の「研究・成果発表会」を開催します ～シカハギ対策など5題を発表～

（参加者募集）

岐阜県森林研究所（美濃市曾代、所長：^{たけうちかずとし}竹内和敏）は、これまでの調査研究から得られた成果を林業関係者をはじめ広く県民の皆様にお伝えするため、下記のとおり、研究・成果発表会（平成23年度第1回）を開催します。

記

1. 日時：平成23年7月12日（火）13:30～16:00（開場13:00）
2. 会場：中濃総合庁舎5階大会議室（岐阜県美濃市生櫛1612-2 電話：0575-33-4011）
3. プログラム（時間は変更になることがあります）
 - 13:30 開会
 - 13:30～13:40 あいさつ
 - 13:40～14:05 発表① エリンギの発生量を増やす菌床処理方法
 - 14:05～14:30 発表② 各種キノコを組み合わせた野外栽培
 - 14:30～14:40 休憩
 - 14:40～15:05 発表③ ナラ枯れ被害跡地の更新
 - 15:05～15:30 発表④ 皆伐や間伐後の当年生実生と埋土種子の構成
 - 15:30～15:55 発表⑤ クマハギ防止資材によるシカハギの防止効果
 - 16:00 閉会

※発表の概要は別紙のとおり

4. 定員： 150人程度（参加無料）

5. 申し込み方法

- ・電話、ファックスもしくはメールにより、申し込み先へ
- ・氏名（団体名）と電話番号を明記（書式自由）
（いただいた個人情報は、本発表会に関する連絡の目的に限り使用します）

6. 申込期限：7月5日（火）まで

（先着順に受け付けし、定員を超える場合は締め切ります）

7. 申し込み・問い合わせ先

岐阜県森林研究所（〒501-3714 美濃市曾代1128-1）

電話：0575-33-2585 FAX：0575-33-2584 メール：c25108@pref.gifu.lg.jp

担当：水谷嘉宏・田中伸治

【発表内容】

① エリンギの発生量を増やす菌床処理方法

森林資源部 かみつじひさとし 上辻久敏

食用キノコは、栽培用菌床に使われているオガコやフスマなどを栄養源とするために、菌床成分を細かく切断して吸収しやすくする酵素と呼ばれるタンパク質を栽培菌床中に生産しています。外部から人工的に酵素を菌床へ追加してキノコの生育を助けることで、キノコの発生量が増加しました。

② 各種キノコを組み合わせた野外栽培

森林資源部 みずたにかずと 水谷和人

野外のキノコ栽培は、収穫時期が短期間に集中しやすいことが弱点です。そこで、ハタケシメジやムラサキシメジ、ヒラタケなどのキノコを組み合わせて野外栽培を行いました。発生時期の異なる複数のキノコを組み合わせることにより、長期にわたって生産できることを確認しました。

③ ナラ枯れ被害跡地の更新

森林環境部 おおぼらともひろ 大洞智宏

カシノナガキクイムシの被害地では、ナラ類の枯損が発生しています。通常、枯損箇所では、何らかの樹種が更新することが予想されますが、ササ類の繁茂の程度や更新樹種によっては、速やかに森林が更新しないことが考えられます。そこで、ナラ枯損箇所での更新状況の調査を行いました。この結果、被害の直後に、同じ場所でナラ類が天然更新することは容易でないと考えられました。

④ 皆伐や間伐後の当年生実生と埋土種子の構成

森林環境部 たなかしんじ 田中伸治

伐採後の天然更新の可能性を判断するためには、更新の初期段階の状況を把握する必要があります。そこで、皆伐や間伐後の当年生実生と当年生実生の起源になりうる埋土種子の調査を行いました。多くの調査地で、将来、林冠を構成する高木性樹種の当年生実生と埋土種子が少ない結果となりました。

⑤ クマハギ防止資材によるシカハギの防止効果

森林環境部 おかもとたくや 岡本卓也

県内において発生しているニホンジカによる造林木の剥皮対策として、ツキノワグマによる剥皮防止資材を用いた場合の剥皮防止効果について調査しました。その結果、資材で覆われていない根張りりで剥皮が発生する傾向にありました。ニホンジカによる剥皮を効果的に防止するには、根張り部も含め対策を行う必要があると考えられました。

【会場案内】



【交通のご案内】

- ・東海北陸自動車道路「美濃IC」から車で1分
- ・長良川鉄道「松森駅」から徒歩20分
- ・岐阜バス高美線「中濃庁舎前バス停」から徒歩1分